

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

February
2019 2

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2019年2月1日発行（毎月一回発行）第734号

● 出会い・本・人

内戦下スリランカでの出会い 志村 真

● エッセイ

『伊豆・川奈に導かれて』を上梓して 山本文夫

● 本・批評と紹介

アンゲラ・メルケル 著／松永美穂 訳

わたしの信仰 木村護郎 クリストフ

カレン・ムーア 著／日本聖書協会 訳

一分間の黙想 心からの祈り 武田なほみ

R・カイザー 著／前川 裕 訳

ヨハネ福音書入門 伊東寿泰

W・シユスラー 編／芦名定道 監訳

神についていかに語りうるか 片柳榮一

小嶋リベカ 著 子どもとつむぐものがたり 加藤 純

上智大学キリスト教文化研究所 編

宗教改革期の芸術世界 山田香里

吉岡 繁 著 教会の政治 キリスト教会の礼拝 吉平敏行

黒川知文 著 ユダヤ人の歴史と思想 金井新一

廣瀬 薫 著 良く生きる手がかり 12 村山順吉

渡辺英俊 著 イエスに迫る 小海 基

ルター研究所 編

宗教改革500周年とわたしたち 5 白川道生

既刊案内

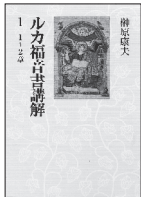
書店案内

愛と祈りによる
紛争解決を求めて



サビールの祈り
 ナイム・アテイク 岩城 聡 訳
 ● 四六判・266頁・本体2,200円

パレスチナに生まれ難民となったアラブ人司祭が世界に向けて発信する呼びかけと、すべての人を抑圧と差別から解放し、正義に基づく平和を実現させるために捧げる祈り。
 *「サビール」とはアラビア語で「道」の意。本書では「生きた水の泉」という意味も込める。



榊原康夫

- 1 1〜2章
- 2 3〜6章
- 3 7〜10章
- 4 11〜14章
- 5 15〜20章
- 6 21〜24章

● 四六判・434頁・本体4,200円
 ● 四六判・504頁・本体4,800円
 ● 四六判・528頁・本体5,000円
 ● 四六判・434頁・本体4,200円
 ● 四六判・438頁・本体4,200円
 ● 四六判・414頁・本体4,100円

聖書のひとつひとつの言葉に対する明快な説明、福音書の歴史的背景についての丁寧な解説、福音書が語るメッセージの正確で確信に満ちた伝達。聖書に対する深い信頼から生まれた卓越した講解説教。

ルカ福音書講解

オンデマンド版刊行

始まりのことは

片柳弘史

● 文庫判・390頁・本体900円



● 文庫判・390頁・本体900円

聖書を読んでみたいけど、全部はちょっと難しい。そんなあなたに神父が贈る毎日の聖句と黙想の言葉！ 聖句に毎日親しめる冊で、受洗者へのギフトとしてもおすすめ。

こころの深呼吸



● 文庫判・390頁・本体900円

インターネットで発信され、多くの共感を集めた言葉を厳選。仕事、家庭、人間関係に悩み、まいにち頑張るあなたへの言葉の贈り物。【キリスト教書店大賞2018受賞】

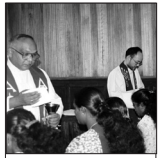
フォロワー10万人突破！



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549(出版部)
 本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



出合い・本・人

内戦下スリランカでの出合い——志村 真(写真右)

一九八八年六月、私たち夫婦は、研修のためインド洋に浮かぶ島国スリランカにまいりました。到着してタラップを降り、空港ビルまでの数十mを歩く間、自動小銃を構えた兵士たちが五メートル間隔で立つ姿は、私たちには異様でした。初めて体験する南国の風は蒸し暑く、空港からコロンボまでの道に立ち並ぶ小さな店に灯された裸電球と、玄関前に出て涼むサロン姿の人々は、強く印象に残っています。その滞在は、内戦の情勢が厳しくなったため、八カ月間という短いものでしたが、そこで一人のタミル人牧師との出合いが与えられました。レック

ス・M・P. ジョセフ(一九四四～二〇〇七)との出合いです。

私たちがアジアの人々の生活、教会の働きを知りたいと願うようになったのは、最初の任地、日本基督教団九州教区での学びによります。九州教区は一九八〇年代初頭から「アジア宣教協力委員会」を設置して、韓国、台湾、フィリピンとの交流を積極的に行っていました。とりわけ、委員会の責任を長く担われた犬養光博牧師(当時、福音伝道)とお連れ合いの犬養素子さんを通して、キリストが共におられる人々との出合い、またそこから問われることを示されてきたと思っています。犬養光博先生は、最近、講演・説教をまとめられ、『筑豊』に出合い、

イエスに出会う』(いのちのことば社)として出版されました。繰り返し読んで、自らの姿勢を正したいと思っています。

少数民族タミル人であるジョセフ牧師は、二十六年に及んだ内戦のただ中であって、民衆の一人として苦難を担いました。

東部Y M C Aの平和委員会などを働きの場として、虐殺や失踪、性的暴行、財産の強奪といった、政府軍と武装ゲリラ双方による暴力の犠牲者たちに寄り添い、人命と権利のために奔走したのです。ご夫妻自身、内戦時代に二人の娘を亡くされています。

ジョセフ牧師は、ストーリーや歌を書いて民衆信者と広く深く交流しようとしました。それらの英語版は、彼を記念したサイトSYMBIOSOPHY (<http://symbiosophy.org/index.html>)で読むことができますし、聖書物語の再話『平和を目指す共生神学』(新教出版社、二〇〇八年)に収められています。彼が遺した詩は二八〇余に上り、それらにタミル伝統のメロディが与えられ、ゆかりの人々の間で歌われています。そうした歌をさらに紹介できる日が来ることを願っています。

(しむら・まこと) 日本基督教団蘇原教会(岐阜県) 副牧師、中部学院大学短期大学部宗教主事。写真はジョセフ牧師と聖餐式を共同司式したときのもの)

厳しい地方教会―「弟子」の数は十二人で十分

『伊豆・川奈に導かれて』を上梓して

私は二〇〇八年、東京での四十年余の会社勤務を終えて、六十二歳で伊豆に転居しました。私が生まれた一九四六年の平均寿命は五十歳代前半でしたが、現在は八十歳代に伸びました。二〇五〇年には九十歳になると予測されているので、この百年間に寿命が二倍近く伸びるというわけです。これは革命的なこと。以前は会社を引退して、ちよつとしたら「お迎えがくる」といわれていましたが、今はそうはいきません。

退職・引退というのは突然、荒地地に放り出されたような、砂をかむような思いにさせられます。自分が座っていた、あのデスクには次の日から誰かが座っている、指示する上司もいなければ、相談を持ち掛けてくる部下もいません。誰にも期待されない日々。することが無い日々。人生百年時代の大きな問題です。

そこで長寿の質が問われることとなります。健康寿命は平均寿命より十年短いといわれます。だから七十歳を越えるころから健康に障害が出てきます。いま家内と私はプール体操に行き、声楽のレッスンに通い、早朝からの畑作業とストレッチ。人間



山本文夫
『伊豆・川奈に導かれて』

ドックの数値は現役時代とは別人のように改善し、肺年齢は今でも三十七歳といわれます。

長寿の質のもう一つ重要なことは心の健康です。心の健康は肉体の健康と深く結びついています。

私たちは早期に伊豆に転居しました。都会から離れ、ゴルフや酒の付き合いから離別し、大自然の中で第二の人生を始めました。

そこで得られた第一の収穫は神様が作られた被造物との交流でした。蝶やミツバチ、小鳥たち、花々や野菜たち、そこに神さまが与えられた知恵と力を発見する生活。彼らは挫折しても本意であつても、あきらめずに命をつないでいきます。神様の御業を見つけ、それを愛でる日々、そこから食卓に直行する新鮮でオーガニックな食材。朝の畑や花壇はまさに礼拝の場所にはかなりません。

収穫の第二は生きがいです。自己目的の健康ではなく、誰かに役に立つ健康こそ生きがいを生み、心を支えます。地方経済の衰退は著しいものがあり、都会との格差は広がるばかりです。

五十年の社会経験は地方で大いに役に立ちます。若い移住者のために市役所の幹部に直言をする、自然保護のために地域の皆さんと力を合わせる、そこに心と心の交流が生まれます。

地方の教会の教勢は極めて不安定です。老いや病、そしてご家庭の事情で転出していく方々が続きます。地方の教会では休んでいる人は一人もいません。伊東は観光地なので日曜日に礼拝を守れない方のために火曜日の夜の礼拝を開始しました。山口光仕牧師が「一人でも来てくださるなら」として始まったのです。主日礼拝と比べると圧倒的に若い方々が多い。聖歌隊には未信者の方々が半数を超え、みな心を一つにしてキリストの栄光を讃えています。リトミック教室には幼児の親子が集い、子ども食堂や教会塾は小中学生の声があふれます。市内のレストランやペンションの経営者も食事作りに一役買ってくれます。レストランのオーナーは、「山ちゃんが『地域に仕える』と言っているので、私もそう心掛けています」と。このお店はとても繁盛しています。

これらの奉仕者の中から受洗者が毎年与えられています。そしてただちに主の戦士として活躍してください。イエスが弟子たちを集めていかれた姿を彷彿とさせるといえるのは言い過ぎでしょうか。弟子の数は十二人しかいない、でもそれで十分だったのです。

この本の随筆は、伊豆のローカル紙「伊豆新聞」に一年間連

載したものです。書き始めるとあちこちから反響がありました。日蓮が試練にあつた土地、その影響が特別に強いところですが、聖書のことを書いてもらってもクレームは一切ありません。そればかりか連載を続けてほしいという声がたくさん届いています。

そこでこの本をテキストにして「大自然の被造物と聖書」という勉強会を始めました。被造物に隠されているミクロな御業の話が私が行い、山口牧師には創世記の第一章から一節ずつ神さまの創造の業をマクロな視点でお話したくというものです。

本書が人生の第二ステージを迎える方の、残りの人生を豊かにするヒントになり、その方が神様に喜んでいただけることになりましたらこの上ない喜びです。

（やまもと・ふみお）静岡県伊東市在住、川奈聖書教会役員
（四六判・二五二頁・一〇〇〇円＋税・ヨベル）

湊晶子著（広島女学院院長・学長）
初代教会と現代 好評発売中！
A5判上製・五二六頁
三三〇〇円＋税

永田竹司氏評——
湊晶子氏は院長・学長の重責を担う現役の研究者であり、教育者である…本書は鋭い歴史神学的問いに満ちた書物である。

初代教会と現代
湊晶子

ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
自費出版の専門出版社

いま最も注目される政治家の基本的な価値観
アンゲラ・メルケル著
松永美穂訳

わたしの信仰 キリスト者として行動する



Angela Merkel
Damen gläubig als Christliche Staatskanzlerin
Fig. von Volker Rosing
わたしの信仰 キリスト者として行動する
アンゲラ・メルケル フォルカレー・ラング 著 松永美穂 訳

木村護郎クリストフ

ドイツのメルケル首相が、東ドイツ（ドイツ民主共和国）に移住した牧師の娘であることは比較的知られているが、メルケル自身がどういふ世界観を持ち、彼女にとって信仰がどういふ意味を持つかは必ずしも広く知られているとはいえない。しかしある人物を理解するために本当に大切なことは、その人の行動の背後にある原動力を知ることだろう。この度、優れた翻訳者を得て、現在世界で最も注目される政治家の一人であるメルケル首相の、自身の言葉で言うならば「方向付けとなり支えとなる内面的な価値基準」（二一〇頁）が日本語で読めるようになったことを喜ぶたい。

本書は、メルケルがキリスト教関係の集会などで語った講演や聖書講話など一六編を五つのテーマに分類して収録している。巻頭および各章には編者による解説・解題が付されている。ドイツ語の原書（二〇一七年刊）は、ドイツの目下最大のテーマである難民問題が巻頭に置かれている。それに対して日本語版は、個人的な観点により前面に出た「「信仰と告白」および社会での宗教の役割をとりあげた「「宗教と一般社会」の後に、

社会的な課題への対応をより直接的に念頭においた「IIIヨーロッパと世界」、「IV社会と正義」、「V難民危機とその結果」が続き、メルケルの背景を理解したうえで現在の課題につなげるという、日本の読者に配慮された構成になっている。また一般にあまりなじみのない用語には訳注が付けられている。

本書に収められた話にはいづれも、生命倫理や環境問題から難民やヨーロッパ統合まで、折々の具体的な課題への言及がみられ、それぞれの案件に取り組む際のメルケルの姿勢が見えて興味深い。そして読んでいくうちに、個々の課題を貫く、メルケルの行動の根幹にある理念が次第に浮かびあがってくる。特に繰り返しでてくる鍵語は（本書全体で実に一七〇回！）、「自由」である。そして自由は責任と対になって理解されている。メルケルにとって、自由は責任を担うための前提条件であるだけでなく、責任をもつて守るべき価値でもある。自由の貴さへの強い思いは、メルケル自身が述べるように、自由が制限された東ドイツ時代の経験に基づいている。また責任との結びつきは、単に法的な意味ではなく、内的な自由に基づく奉仕を打ち

出したルターの自由観に裏打ちされている。メルケルによれば、「自由と責任とは、キリスト教的な意味において密接に結びれているのです。」（八六頁）

メルケルは、政治には価値を作り出すことはできず、「自由を希求し自己や他者に責任を持つ」（一一四頁）価値基準が社会で共有されることなくして民主主義は機能できないと言っている。そして教会がこのような価値観の源泉として公共的な役割を果たすことへの期待を繰り返して述べる。メルケルが本書に収録された話を語った代表的な場である福音教会大会やカトリック大会は、ドイツでも五本の指に入ると言われる大きな催しであるが、信仰や社会に関する多彩なテーマが多様な観点からとりあげられ、ドイツにおける公共圏としての教会の役割を体現する場である。

一方、本書においては、メルケルは実は自身の信仰生活自体についてはあまり語っていない。その理由を、公私を区別してあまり私的な面を公けに出さないメルケルの政治家としての姿

勢に帰することもできる。しかし福音よりも社会的課題を前面に出すことは、メルケル個人のみの特徴ではなく、ドイツの教会——とりわけメルケルの属するドイツ福音教会——にもしばしばみられる傾向でもある。メルケルは、価値観をもたらずに基盤としてのキリスト教が次世代にも受け継がれることの重要性を強調するが、そのためには信仰の核心をも語り伝えなければならないはずである。

本書は、メルケル首相の行動やドイツの動向とその背景をより深く理解するための必読書であるのみならず、信仰をどのように実践につなげていくかについて、教会の社会的な役割について、さらには行動に伴うべき言葉のあり方について、ドイツという個別の文脈をこえて重要な問いをなげかける。政治の言葉に重みや思想的深さを感じられない現在の日本においてこそ読まれるべき本だろう。

（きむら・こうろく・くりすとふ）上智大学教授
（四六判・二四〇頁・本体 三二〇〇円＋税・新教出版社）

【機械仕掛けの神】（作業仮説としての神）その後に来る神は？

長谷川正昭著（東京教区城南グループ協力司祭）

笑いと癒しの神学



これらの神を信奉する（宗教の時代）は全く過ぎ去った。世界は一体どこに向かうのか。この難題の前に、多神教的風土の日本にあって（笑いと癒し）を神学のテーマに現代キリスト教を問ひ、その活路を幅広く探求（恵）についても論じる！ 四六判上製・四四八頁・二八〇〇円

潮義男著（日本基督教団仙石宣業社教会教師）

創世記講解 上



人間とは何者か、この世界どのように生き始めたのか。世界と人類の創世、楽園からの追放、大洪水、崩れ落ちた塔、新たな旅立ち、それらの背後に息づく神の息吹……。物語としての魅力も尽きない「創世記」を現代の日本で、講解読教として分かりやすい言葉で語り明かす。新書判装・三〇四頁・二〇〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・呈

日々みことばに親しみ、たゆまず祈る助けに
カレン・ムーア著
日本聖書協会訳

一分間の黙想 心からの祈り



武田なほみ

本書は日本聖書協会から「一分間の黙想」シリーズの第二弾として、翻訳・刊行されたものです。シリーズ第一弾のE・M・バウンズ著『一分間の黙想 祈りの力』と同じく、手になじみやすく持ち歩きやすいサイズ。本書も簡素な美しさを持つ箔押し表紙で整えられ、いつでも手元に控えていてあなたかく私たちを祈りに招き入れてくれる書に仕上がっています。

ページを開くと一日一ページずつ、聖書のことばと祈り、古今のキリスト者や哲学者、芸術家などのことばや格言が平易な文章で綴られています。どのページにも季節の花々や果物の挿絵が添えられており、読む人がその生活のただ中で、まさに日々の生活経験から神に心を上げて祈り、みことばに力づけられて、また日常の生活へと送りだされていくように、その営みをこの書そのものが支え同伴するような細部にまで心を配って作られていることが伝わってきます。

著者のカレン・ムーアは若者向けの本や日々のデボーションなどで多くの著書を持つ作家ですが、著者自身のウェブサイトによると、本だけではなくグリーティングカードの作家として

も活躍しているようです。一人の家庭人としての生活感覚を持ち、その日常を愛と信仰の内にとり、自らも祈りの内に人の心に届くメッセージを発する才を与えられている……そんなおらからで率直な心あたたかいアメリカ女性が思い浮かびます。

著者は「たゆまずに祈る」と題された前書きで、この書にこめられた願いを語っています。読者が日々この書を傍らに祈る時、「毎日の祈りを聞いてくださる主にとって、あなたは本当に大切なのだということ」を「分かるように、また、どんな状況にあってもたゆまず祈り続けること」「自分の置かれている状況について、もっと深く、平安のうちに考えることができるようになる」ように。そして祈りと黙想を通して「あなたが神に自分を委ねること」ができるように。著者自身がたゆまず祈り、日々、神から慰めと一歩踏み出す力を与えられる経験をしているからこそ、読者にもその幸いと平安が与えられることを願うのでしよう。いわば、それが著者の「心からの祈り」であるのかもしれない。

「心からの祈り」と言えば、著者は本書の中で、「口先だけではなく心の底から祈ることができるように、わたしを助けてください」というマルティン・ルーターの祈りを紹介しています。日々たゆまずに、心の底から祈ること。それは、神を信じ、愛し祈る者の誰にとっても切実な願いであるのでしょうか。

本書を手にしてから、評者は日々、その日のページを開いていくつかの読み方を試しながら黙想をしてきました。一日一ページですから、読むだけであればあつという間です。訳文も読みやすく、初めはつい先へ先へと読み進めたくなり、各ページの終わりに紹介される先人の祈りまで読んだ後には「この人は誰だろうか？ プロテスタントでは有名な人なのかしら？」などと思ったりして心があちこちに飛んで黙想にならなかつたのですが、次第に自分なりのペースや読み方が定まってきて黙想につながっていくようになりました。ゆっくり読んで黙想すると、その日のページ、特に聖書のことばから、一つのことばが立ち

上がってくるのを感じます。そのことばに留まって、耳を傾け、その日一日そのことばを抱きあためて生きる。そうできると心はほかほかです。その熱にあたためられて、今、何らかの助けを必要としている人のところに出かけていく力を願います。読者は、初めに聖書のことばだけを読んで味わってから祈ることばに進むなり、まずひと通り読んで後に再度、聖書のことばに戻って黙想するなり、それぞれにもっとも黙想の助けとなる読み方を見つけていけることができるでしょう。教派や年齢等にかかわらず、みことばにさらに親しみ、ともに祈り、生かされていくための一助になる書。日本聖書協会ならではのプレゼントにもお勧めです。

(たけだ・なほみ 上智大学神学部教授)
(A6判変形・四〇〇頁・本体一八〇〇円＋税・日本聖書協会)



キリスト教書総目録 2019年版

心がふるえる本との出会い

巻頭エッセイ 柳美里氏 水島治郎氏

総記 年鑑 辞事典 図説年表 全集(著作集) 叢書 講座 聖書 聖書学 神学 宗教学 思想倫理 伝記(フタタシ) 信仰 入門書 人生論 説教集 文学 小説 評論 詩 劇 音楽 美術 建築 教育 保育 心理 社会福祉 児童 絵本 讃美歌 式文 DVD CD カセット ビデオ キリスト教関連 雑誌新聞 書名索引 著者索引 掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送品手数料200円
■ お近くの書店様でお求めください。

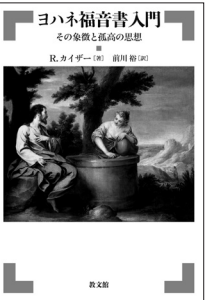
キリスト教書総目録刊行会

事務局 〒162-8710 東京都新宿区
東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

ヨハネ福音書に真正面から取り組んだ入門書

R・カイザー著
前川 裕訳

ヨハネ福音書入門 その象徴と孤高の思想



伊東寿泰

ロバート・カイザーのこの本が「今頃？」そして「ようやく」翻訳出版されたのか、というのが私の率直な感想である。本書は、キリスト教学のうち、新約聖書学の、それもヨハネ研究の中でも（入門書なので）主要な研究とは言い難い位置づけではあるが、ヨハネ福音書の入門書としては海外ではそれなりに認識されたものである。日本の読者にもわかりやすいように、また興味を引くように、「John, the Maverick Gospel」という原著の書名を「ヨハネ福音書入門——その象徴と孤高の思想」とするなど、邦訳タイトルにも工夫の跡が見られる。著者自身が述べている通り、これは決して学術的な研究書ではなく、聖書（文献）の初心者にも入門編として書かれたものであり、そのため、①学術書によくある注がないので読みやすい。②まず教会の聖書研究グループに向けて書かれ、その後③大学の授業の中で学生との議論を通して書き直しもされた。だから読み物としても面白い。

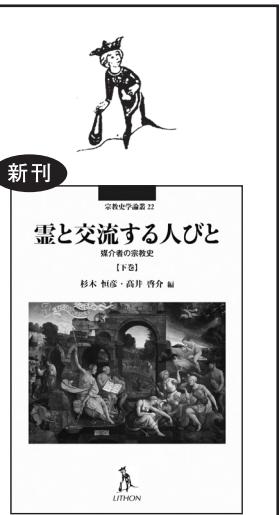
しかし本書は、著者が「第二版を出版してから数年にわたって、私自身のヨハネ福音書との格闘が続いた。この間に、ヨハレまでの聖書学の研究史を著者の視点からまとめてくれているところである。歴史批評的研究を中心とする近代主義の研究に対して挑戦とも映る、多様な（包括的な）読みや解釈方法を用いるポストモダン主義的研究の台頭経緯を説明し、現在の聖書学の一般的な研究動向を教えてくれる。この分野の「入門者」が幾多の注解書や解説書に囲まれても、それらの本の立ち位置（誰がどのような方法で何を明らかにするのか）を知る手掛かりを与えてくれる。ヨハネ研究においては、巻末の参考文献リスト（とその出版年）と合わせるとさらに有益であろう。

気になった点は、原著タイトルに使われている「Maverick Gospel」の訳語は、荒くれ（者）というイメージが強さ「一匹狼の福音書」よりも、二七二頁にもあるように「型にはまらない／反主流の」という点で、「型破りの福音書」のほうが私には良いように思える。ただし三一九頁のように訳の箇所によっては、「一匹狼」の方が良い箇所も勿論ある。訳者の前川氏

ネ福音書の学術的研究にも、また私自身の見解にも多くの変化があった。つまるところ、人々が変化し成長するのと同じく、本も変化し成長しなければならない」（八頁）と述べているように、一九七六年の初版（約一二〇頁の比較的薄い本）、一九九三年の第二版を経て、二〇〇七年に第三版（本邦訳版）と約三〇年にわたり改訂を続けたもので、入門書といっても内容はそれなりに深い。基本的にキリスト教の文化的背景を持つ米国などの読者においてならわかるが、入門書でも日本の読者にはそれなりに読み応えがある（邦訳は約三四〇頁）。学術的な深い議論や学説の紹介はないが、内容は押さえるところを押さえていて、ヨハネ福音書を読む際に読者として注意すべき基本的なポイントに気付かせてくれる。一言で言えば、絶好の概説書の一つである。本書を改めて読み返すと、私が南アフリカでヨハネ研究を始めた頃、大きな図書館に所蔵されていた一連の研究書をワクワクして読んだ時の記憶がよみがえってきた。

今回の第三版（邦訳）で特に有益だと思った部分は、初版にはなかった終章の内容が、ヨハネ研究を引き合いに出して、こは、ヘルシンキ大学神学部（フィンランド）に留学し、現在は新約聖書学（特にヨハネ福音書と本文批評）の専門家として、大学等でキリスト教学を教えておられる中で、今回総じて読みやすい訳書を送り出してくれた。本書に限らず、新約聖書学の研究書が翻訳されて、興味深い先行出版物が日本の読者の目に触れる意義は大きい。このような翻訳本に熱意を注がれた訳者や出版社に敬意を表するとともに、今後も同様な企画が日本の読者のため、また新たな読者層の開拓に向けて進められることを願っている。

（いとう・ひさやす＝立命館大学教授）
（B6判・三三六頁・本体三九〇〇円＋税・教文館）



新刊

宗教史学論叢22

霊と交流する人びと

【下巻】

高井啓介・杉木恒彦 編
●A5判上製 本体4,000円＋税
渡辺和子メソポタミアのシャーマニズム論序説／高井啓介女性降霊術師と女性預言者—旧約聖書における媒介者の正当性について／上村静ラビ・ハニナ・ベン・ドサ／細田あや子媒介者マリア—『人類救済の鑑』を中心に／志田雅宏預言への思索—マイモニデス、ナフマニデス、アラフィア／虫賀幹華死霊の憑依と鎮魂における媒介者／他5篇を取録。

ISBN978-4-86376-069-1

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

宗教が失われつつある時代の中で
W・シユスラー編 芦名定道監訳

神についていかに語りうるか プロテイノスからヴィトゲンシュタインまで



片柳榮一

『われわれは完全に宗教なき時代に向かっている』。ボンヘッファーは一九四四年四月三〇日に、そのように書いている。彼は宗教が失われていくことを当時の精神状況として捉えていた。二十一世紀の初めに、それが部分的にはあるが実際の状況となっているにしても、宗教が失われていくことはわれわれが向き合ふべき危急の事態である。西暦2000年前後に『宗教の回帰』として診断されたことは、教会の中であまりに短絡的に利用された。それによってわれわれは目をくらまされ、この宗教の回帰は、極めてわずかであるがキリスト教に有利に働くということや、多くの偽宗教が出現し、宗教的な迷信という形になり、また何よりも宗教的動機を持った熱狂主義が出現したということは度外視されたのである』（二二五―二二六頁）。『神についていかに語りうるか』との魅力的な題をもった本書がドイツで刊行（二〇〇八年）されたのは、このような現状認識の下においてである。この状況は多少の違いはあるにしても私たち日本の状況と多くは変わらないであろう。だからこそ、ここで扱われた事柄は、私たちの問題でもあり、私たちの

心に深く突き刺さってくる。

心へ深く突き刺さってくる。十八の論考からなる本書は大部分がキリスト教神学の立場から書かれたものであるが、その最初では「プロテイノスの否定神学」が扱われ、最後は「語りえぬことを語る…老子と莊子におけるタオとナーガールジュナの『空』」が扱われるというように、非キリスト教圏の思想の論考に前後を囲「われている」。この構成が暗示するように、本書は、現代という時代を「完全に宗教なき時代に向かう」途上の時代として受けとめ、いわばその無神論的荒野そのものを私たちが、現代において神に出会う場所として積極的に捉え直そうとしているように思える。プロテイノスに源流を持つ、「否定神学」の古く長いキリスト教的伝統を掘り起こし、また東洋の「無」の思想にも真剣に耳を傾け、また同時に現代思想と対話し、狭いドグマの枠を超えていわば宗教間対話しながら、究極的なものに如何に出会い、それを如何に言葉にしうるかを探ろうとしている。

ここで目を引くのは、私たち日本の読者にとつては、「非宗教的」思想家として紹介されることが多いヴィトゲンシュタイ

ンやリオターールやデリダが、深い宗教的関心のもとにその思索活動をしてきたことが語られていることである。あらためてヨーロッパにおいてキリスト教という宗教が、人々の心の地下水のようなものとして根付いていたことを思わせられる。だからこそ最初に挙げた文章に見られるように、「完全に宗教なき時代」に向かうことへの戦慄的な危機意識も極めて真剣なものなのだと思う。地下水が涸れて、心も枯渇してくることを実感しているであろう。

本書は『神についていかに語りうるか』の題が示すように、その焦点を「言葉」に合せている。有限な人間の言葉が、如何に無限なるものを示しうるかが問われている。その一方の極には、初期ヴィトゲンシュタインの「語りえないものについては沈黙しなければならない」（三二九頁）との態度があるが、にも拘らず語ろうとする試みとしての「象徴」（テイリツヒ）や「暗号」（ヤスパース）があり、類比（トマス）や「知

ある無知」（否定神学、アウグスティヌス、クザールヌス）もここに入る。プーバーであれば、日常的に出会う世界そのものが、神の語り掛けである（二六四頁）。バルトはもう一方の極にあるように見えるが、その根本命題としての「神は神のみによって認識される」（一六四頁）との極めて素気ない、完璧に教義的な表現によつても、人間の言葉の根本的な限界が示されている。この命題は人間の言葉において「沈黙」を表現しているとも言える。

この極めて現代的問題意識に貫かれた書を通して、私たちはあらためて、自らの人間としての限界を示され、その限界において、私が生きるこの世界のさらに底に、私を越えたものを「謎としての仕方で」（一〇五頁）臆に感ぜしめられる。

（かたやなぎ・えいいち＝聖学院大学客員教授、京都大学名誉教授）
（A5判・四九〇頁・本体六五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

旧約理解をさらに深める
必読の名著

いかに解釈してきたか
現代まで
七十人訳から

B・S・チャイルズ 田中光／宮崎薫／矢田洋子 訳

イザヤ書を中心に二千年にわたる旧約解釈の歴史をたどりつつ、個々の解釈者を、あまり光を当てられてこなかった人物も含めて公平に論評する。
A5判上製・506頁・7344円

新しい讃美歌で
新年度を迎えませんか

讃美歌セール

2019年1月1日～3月31日

対象の讃美歌を
同一タイトル10冊ご購入
ごとに+1冊進呈!

対象の讃美歌や
お申し込み方法など
詳しくは案内ページ
をご覧ください

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

子どもと共に生きる、すべての人の必読書
小嶋リベカ著

子どもとつむぐものがたり プレイセラピーの現場から



加藤 純

小嶋リベカさんには、ここ数年「子どものグリーフワーク」という授業にゲストスピーカーとして来ていただいています。二〇一八年も十月初めに授業でお話ししていただきました。授業を聞いて、二つの意味での「やさしさ」に感銘を受けました。

一つは、語り口の優しさです。リベカさんは、教壇に上がらず、学生の近くに立ち、ゆったりとした穏やかな口調で、優しく声を届けていました。

もう一つは内容の易しさです。大学の授業だからといって難しい言葉を使いません。この本でもそうですが、たとえを使ったり、絵本や事例などを織り交ぜたりして、生き生きとしたイメージが思い浮かぶお話しでした。もし小学生が教室にいたとしても、授業の内容をおおよそ理解できただろうと思います。

たとえば、変化や喪失が起きたときの子どもの状態をジェンガというゲームを使って説明してくださいました。ジェンガは、小さな積み木のような棒を一八段の高さに積み上げたところから始めるゲームです。タワーのように積み上げた途中の段から

一本、二本と棒を抜き取ると、全体がゆらゆらと揺れ始めます。学生は（そして私も）ジェンガが揺れるのを見てドキドキしながら、病气や離別などによって、それまでの日常の当たり前が変化した時に子どもたちが経験する心の揺れを身体に感じました。

ほんとうは難しいはずのことを、何と分かりやすく、すっと頭に入るように、また心に届くように説明されるのだろうと感銘を受けました。

二つのやさしさに加えて印象に残ったのは、リベカさんの支援方法の新しい広がりです。

著書にも記されているように、リベカさんは米国オレゴン州にあるダギー・センターで死別を体験した子どものグリーフケアを学び、英国でプレイセラピーを学んで来られました。

リベカさんをゲストスピーカーとして授業にお招きしたのも、ダギー・センターでの支援方法について、実際に携わった立場から教えていただきたいという願いからでした。

しかし、リベカさんは、子どもたちや家族と出会い、工夫し

て、ダギー・センターのモデルとは一味違った新しい方法を加えた独自のアプローチを築いて来られたようです。

ダギー・センターでは、子どもの言葉や行動を反映することを基本として、おとなが誘導したり提案したりしません。何ヶ月もかけて子どもの遊びを見守り続けます。

死別後の長い道のりの支援とは異なり、短い入院期間での支援をするためなのかもしれませんが、リベカさんは、子どもの様子を感じ取り、耳を傾け、反映することを大切にしながらも語りかけたり、親子での時間の過ごし方を提案したりしています。ただし、大人が自分の意見を伝えるのではなく、語りかけることの主体は言葉を受け取る子どもだと、リベカさんは言います（二〇〇頁）。

お話を聴き、海外の方法の紹介ではなく、日本での発展として広めて欲しいと思いました。授業の後、お見送りをしながら、「ぜひ本にしてください」とお願いしました。

ふつうは「いやー、私なんか」とか「いつか出せたら」とか消極的であれ積極的であれ、自分に引きつけて答えようです。リベカさんは、「いつもそうやって応援してくださいってありがたいですよ」と答えました。なんだかこちらがとても良いことを言ったような気持ちになりました。まさに受け取る人を主体にした語りかけでした。

それから一か月後、本が出ました。授業の時に感じたやさしさそのまま本の語り口に表れていました。モヤモヤ、グラグ

ラ、チクチク、ふわふわなどの擬態語がたくさん使われています。不安とか、心配、不安定と言うよりも、ずつと分かりやすく、豊かなイメージが湧きます。絵本や映画、与勇輝さんの作る人形、小田和正さんの書いた歌詞、京都の市バスで見かけた人権標語など身近な題材が散りばめられて、肩肘を張らずに読める本になっています。

この本を読んで、「ずいぶん簡単なことが書かれているな。これなら自分にもできそうだ」と思う方もいらっしゃるでしょう。多分、それがリベカさんの望んだことだと思います。子どもが必要としているのは特別なことでなく、当たり前のおしゃべりです（八二頁）。身近なところで話を耳を傾けてくれる大人を子どもは必要としています。

簡単そうに見えて、実はとても難しいことだとも記されていますが、それは「難しいからあなたにはできません」という意味ではないでしょう。多くの人が自動車を運転できるようになれますが、簡単なことだとあなどり大切なことを忘れて運転すると事故を起こします。この本はあつとという間に読めますが、手許に置いて読み返すと、大切なことを思い起こさせてくれるでしょう。

（かとう・じゅんルーテル学院大学子ども支援コース主任
（四六判・一五二頁・本体一五〇〇円＋税）日本キリスト教団出版局）

聖堂内部で祈りは昇華し芸術となる
上智大学キリスト教文化研究所編

宗教改革期の芸術世界



山田香里

三二三年のミラノ勅令を機に、大規模な教会堂の建築活動が始まった。内部では典礼が執りおこなわれ、音楽も奏でられたであろう。のちに教義が形成され典礼が変容すると、それに伴って建築内部の構成や装飾も変化する。二千年に及ぶキリスト教の歴史の中で、教義、典礼に決定的な変革をもたらしたのが、五百年前に起こった宗教改革かもしれない。ご紹介する本書は、宗教改革に直面したカトリック、プロテスタントの両教会が、いかなる芸術を生み出したのか、建築、美術、音楽という三分野の研究者による講演とシンポジウムとして二〇一七年開催された上智大学聖書講座に基づくものである。

宗教改革以前、例えばゴシックの大聖堂の内部は現在のよう椅子が並べられていたわけではなかった。広い外陣は市民に開放され、散歩さえ出来る空間であったという。では教会堂はいつから座席を設けるようになったのか。以前、ある実践神学の研究者がこの話題になったとき、「宗教改革以降ではないですか？ カトリックに比べると、プロテスタントの牧師の説教が長いから、座りたくなつたんでしょ」というような冗談が

ならない。

宗教改革によりカトリックも変革が求められ一六世紀後半にはトレント公会議が開催される。ルターは一般信徒に聖書と讃美歌を開放した一方、カトリック教会において崇敬の対象であった聖母や聖人を排除した。これを受けてカトリック教会は公会議で一般信徒向けのわかりやすい教義の確立を目指し、それが殉教者や聖母の主題をわかりやすく描くことにつながる。児嶋由枝氏は「トレント公会議と美術」奇蹟の聖母像と聖地ロレート」と題し、カラヴァッジョの描いた「ロレートの聖母」を中心に、当時のカトリック教会における聖人崇敬の美術を論ずる。カラヴァッジョの「ロレートの聖母」は、当時一般に流布した「家とともに飛来する聖母」図やロレート大聖堂の聖母像に基づく図像とは異なり、貧しい巡礼者に聖母子が出現する奇跡場面として描かれる。当時この絵を見た者は、自らを巡礼者に重ね合わせて聖母と出会ったであろう。これこそがカトリック

飛び出した。これがあながち過ちではないことが、中島智章氏の論考で示された。中島氏は「宗教改革期の教会建築」と題し、一六世紀後半のマニエリスムの教会堂建築から、一七、一八世紀のバロック建築についてカトリック（特にイエズス会）、プロテスタント（ルター派、改革派）の教会堂を紹介している。成立期のプロテスタント教会は、既存のカトリック聖堂を手直しして使用することが多かったが、カルヴァンはジュネーヴのサン・ピエール聖堂内部にベンチと献金箱を設置したという。主祭壇は質素な聖餐桌となり、説教壇が重視されるようになった。礼拝において、説教が重視された結果である。ルター派の教会堂はライプツィヒのトーマスキルヒエとニコライキルヒエが紹介されている。後者ではバッハが『ヨハネ受難曲』を上演した。『ヨハネ受難曲』に関しては、磯山雅氏が聖書講座において「バッハ『ヨハネ受難曲』受難の道筋」と題して講演しているが、氏の急逝により本書には収められていない。この書き起こし原稿等が掲載されれば、巻末のシンポジウムの対談と合わせてより本書が興味深くなったであろうと思うと残念で

ク教会が目指した「わかりやすい教理」であった。それにしても、カラヴァッジョの描いたものは、単なる「わかりやすい」ものではない。静かな宗教性が湛えられている。実際の彼は宗教的とは程遠く、殺人を冒して逃亡者となる。その彼の描いたものが宗教的とは、人間とはなんと複雑で、奥深いものか。こうした不条理こそが芸術を生み出すのかもしれない。児嶋氏は、西洋にとどまらずイエズス会士とともに日本にも到達した聖母図にまで言及し、遠い西洋の出来事と思われがちな対抗宗教改革が日本とも関係することを気づかせてくれる。

シンポジウムでの聖堂に関わる三分野の研究者たちのやり取りを読むと、聖堂内部での祈りが芸術という形に昇華される様が浮き上がってくるようである。ぜひ一読されたい。

(やまだ・かおり)立教大学兼任講師
(四六判・一四八頁・本体一五〇〇円+税・リトン)



宗教改革期の芸術世界

上智大学
キリスト教文化研究所 編
●四六判並製 本体 1,500円

本書は、2017年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論集（磯山雅氏の論文は逝去のため未収録）とシンポジウムを収録した。

宗教改革期の教会建築
中島 智章

トレント公会議と美術
一奇蹟の聖母像と聖地ロレート
児嶋 由枝

シンポジウム
宗教改革期の芸術世界
司会

竹内 修一

提題者

中島 智章

児嶋 由枝

磯山 雅

ISBN978-4-86376-067-7

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

「聖書的公同教会の形成」を問う
吉岡 繁著

教会の政治—キリスト教会の礼拝



吉平敏行

評者が、吉岡繁先生と道子夫人に初めてお目にかかったのは二〇一五年三月、日本基督教団の全国連合長老会と日本キリスト改革派教会、日本キリスト教会による日本改革教会協議会で、お昼を一緒に過ごした時であった。これら三教会は、その端緒を一八七二（明治五）年設立の横浜公会に置く、（旧）日本基督教会の流れを汲み、改革教会の信仰と長老制度とを重んじてきた教会である。隣に座るご夫妻の名札に「改」吉岡を見て、評者は、神戸改革派神学校校長を務められた吉岡繁先生と奥様と直観したのを覚えている。自己紹介した後、道子夫人と話すうちに、「信仰と科学は、どのように一つになるのでしょうか」と、ぼつりと難題を振ってこられたのである。

その後、夫人と手紙のやり取りがあつて、二〇一六年六月に全く別件でご自宅を訪ねることになる。それは、評者が日本キリスト教会大会歴史編纂委員の一人として、一九五一年に（旧）日本基督教会の三十九教会と三伝道所が日本基督教会を創立した前後、吉岡先生が、改革派教会の立場から（新）日本基督教会の「教団離脱」をどう見ておられたかをお聞きするためであ

つた。生憎、その当時、先生はアメリカのウエストミンスター神学校へ留学されておられ、お答えはいただけなかった。

この度、道子夫人とご息らにより吉岡先生の『教会の政治』と『キリスト教会の礼拝』が合本として再刊され、読み返しなから、道子夫人の「信仰と科学」の難題に相当する「信仰と教会政治」という課題を再考することになった。なぜ、「信仰による救い」に「教会政治」が必要か、という問いである。

『教会の政治』の最終章が「エキュメニズム」となっている。評者は、改革主義・長老制に立つ吉岡氏がなぜ「エキュメニズム」を最後に置いたのかを知りたく、一九六七年に、神戸改革派神学校校長就任時になされた講演『「公会主義の本質と背景」伝道とエキュメニズム』（「改革派神学」第九号所収）を読み、氏が意図したエキュメニズムの本質が見えてきたような気がする。その講演の「結び」に、「明治の初め、日本に伝えられたプロテスタントキリスト教の主流は、正統的な改革派信仰ではなく、長老主義政治という外衣をまとった福音主義であった」とある。それは、横浜公会が設立された二年後、改革教会と会

衆派教会との合同を目的に「日本基督教会条例」が作成されたが、「我輩ノ公会ハ宗派ニ属セズ」で知られる「公会主義」は、第一条例（信仰諸則）を万国福音同盟（一八四六年設立）の教理的基礎九箇条に置く福音主義が入り込んだものであつたとする。そのような「公会主義」は、教理に福音主義を採用し、教会政治に長老主義を採用したもので、「公会主義の限界」をも示していたのである。真のエキュメニズムは、福音主義に含まれる人間主義的要素を排し、御言葉の教説と礼典の執行、戒規の実施を伴うべきとする、氏の改革派信仰の主張が感じられる。

かくして、『教会の政治』の各章が、I 見える教会、II 教会政治の規範としての聖書、III キリストの教会主権と教会権能、IV 教会政治、V 戒規、VI エキュメニズム、の順になることも納得できる。本書で「神学的立場の分極化と対立の激化が現れてきている今」と記す「今」とは、初版が出た一九七〇代のことである。ご息の成二氏は、「学園紛争の頃で、日本の教会も

混乱していた『政治』の時期であつた」と言う。吉岡氏は、その時代の混乱の原因を「教会自体が、教会の政治について明確な理念をもっていないこと」にあると記す。その「明確な理念」が、教会史、教理史をも繕き、旧・新約聖書、七十人訳聖書の原語を分類・分析して論じる吉岡氏の手法に現れている。原語を丹念に辿る手間のかかる方法であるが、キリストの体である教会の「霊的一致」に「み言葉の真理の理解の教理的的一致」を欠くことはできないとする、氏の一貫した主張が見て取れる。そこに氏の「エキュメニズム」の要がある、と評者は見る。

教会の衰退が危ぶまれる「今」も、「神学的立場の分極化と対立」はあり、そうしたキリスト教界の分断を繋ぎ止め、聖書の公同教会を建てるための今日的な「理念」が改めて必要とされている。本書の再刊を感謝するとともに、より多くの方々にご一読をお勧めする。

（よしひら・としゆき）日本キリスト教会雲雀ヶ丘伝道所牧師
（A5判・三二〇頁・本体二四〇〇円＋税・一麦出版社）



教会の政治 キリスト教会の礼拝

吉岡 繁
Shigeru Yoshioka



教会の政治についての聖書の教理を概説する『教会の政治』。礼拝の聖書的根拠を問う『キリスト教会の礼拝』。聖書から演繹した教説を明確にし、改革派神学の中で教会政治と礼拝を位置づける。

A5判
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-109-0

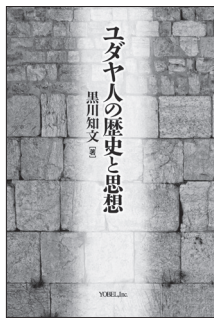


株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

民族的苦難とメシアニズムの因果関係を極めて包括的・系統的に示す！

黒川知文著

ユダヤ人の歴史と思想



金井新一

現在の世界の動きの中で、イスラエルに関するものは最も頻繁にまたは周期的に現れてくるニュースと言えるだろう。あまり明るい内容ではないのだが、ともかく現代のユダヤ人国家イスラエルの存在は絶えず世界の人々の関心を引き起こさずにはいない。

帝政ロシアに生じた凄惨なユダヤ人迫害であるポグロムの研究から研究者の道を辿り始めた本書の著者は、今やわが国のユダヤ史研究を代表する一人である。そのような著者はこの書によってその研究の総括に入ったのかもしれない。書名が「ユダヤ教の」ではなく「ユダヤ人の」であることから私はふとそう思ったのである。宗教研究から人間研究になったと感じたのである。

本書の内容は平明な筆致で述べられたユダヤ人の歴史である。それは驚くべきという表現が決して大げさではないような民族的苦難の歴史である。それをこのように網羅的に辿った研究はわが国では本書のみであろう。さらに本書の価値を大きく高めているのは、民族的苦難とメシアニズム(救世主信仰)の因果

関係を極めて包括的かつ系統的に示したことである。しかも迫害者と被迫害者の共生を最終目標として設定していることも含めて、今後多くの研究を裨益するところ大であろう。また興味深い表や図が沢山載っていることもこの書の論述に大きな説得力を与えている。

ただ一つ気になったことは、本書はヘレニズム期のユダヤ人の歴史から始まるのだが、神話的時代というべき旧約聖書の創造物語やそれに続くアブラハムとその子らの伝承、出エジプトの物語と様々な王朝伝説等々には触れない。評者はユダヤ人の苦難の歴史はあの出エジプト伝承から始まると思っているのだが、あえてそこから物語を始めないところに著者の強い方法的意図があったといえよう。ユダヤ人の社会史という視座がそれである。だとすれば、それによって、著者にはこの書を終えてなお残る一つの課題が残されたと言えるかもしれない。それはユダヤ人の苦難と救済の信仰思想史とも呼べるもので、その場合はおそらく本書では割愛されたものが冒頭に回復されて現れるであろう。ともかく、本書はユダヤ人と呼ばれた人々の具

体的現実的な歴史ないし社会史を描くことに自己限定しているのである。

本書を読み進めるうちに評者のうちに生じた強い一つの関心事について述べるのが許されるなら、それは、このような苦難の民族また民族史が世界にたいして持つところの意義という問題である。世界への貢献といっても良い。著者はユダヤ人の群を抜くノーベル賞受賞者数を指摘しているが、確かにそれは驚くべき数字である。それは長く果てしない迫害と苦難の歴史がこの民族にもたらした意図せざる結果、いや、この民族を通して世界が与えられた予想外の賜物だったのではあるまいか。このように考えながら、私の内に浮かんだもう一つの光景があった。それはナチスの迫害下に起こったある印象的な事件のことである。一九三九年の五月に千人ほどのユダヤ人がハンブルグ港からキューバのハバナに向かって出帆した。しかし、かれらは目的地のハバナ港で下船を拒否され、隣国アメリカも接岸することを許さなかった。こうして、入港を打診された各国は

例外なくナチス・ドイツを憚ってしり込みしたのであった。船は仕方なくヨーロッパへと戻り、いよいよ出航地のハンブルグに戻るしかないというその前夜、英仏蘭などの連名でどこでも望む港に上陸して良いとの電報が入るのである。このように、多くの港で下船を拒まれて大海を彷徨うユダヤ人たちの姿は、本書が描いたユダヤ人の歴史的全体像と重なり合う。かれらはどこに投錨しどこで安らかな生活を始められるのか。そもそもその放浪は何のためののか、それを強いる世界とは何なのか。一体いかなる権限によってそうするのか。かれらの歴史は実に謎めいており考えねばならないことだらけである。いずれにしても、ユダヤ人が現在のイスラエル国の建設によって膨大なパレスチナ難民を生みつつ、周辺諸国と強硬に対決する姿を見て、かれらが無事に安全な港に入ったようには見えないのである。

(かない・しんじ) 東京大学名誉教授、賀川豊彦記念沢尻資料館館長
(四六判・三三六頁・本体一八〇〇円+税・ヨベル)

教会と国家、信仰と教育、女性と社会——生涯をかけて綴った初の論文集！

湊晶子著 (広島女学院院長、学生)

初代教会と現代

AS判上製 五二六頁 三、五〇〇円 絶賛発売中！

日本における女子教育を力強く牽引してきた著者の学問の出発点となった、ローマ帝政下における初期キリスト教研究を第一部に集め、転じて、国際化時代におけるリベラル・アーツの大切さから、女性の自立と社会参画への道をキリスト教信仰の立場から追求した第二部、第三部構成の記念碑的著作。

黒川知文著 ユダヤ人の歴史と思想

AS判上製

五二六頁

三、五〇〇円

絶賛発売中！



ヘレニズム期からナチスによるホロコーストに代表される現代まで、世界中で連綿と行われてきたユダヤ人迫害、キリスト教世界の只中からなぜか、しかも苛烈なユダヤ主義が生じたのか。その歴史を真直ぐに見つめつつこの災禍を通じて形成されていったユダヤ人固有の諸思想までを詳説する。
*絶賛発売中 四六判・三三六頁・一八〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.

お問合せは info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1

TEL03(3818)4851 (本体税別表示)

*自費出版の専門出版社*資料・呈

キリスト教信仰を土台に生活する喜びを導く
廣瀬 薫著

良く生きる手がかり
『羽仁もと子著作集』「信仰篇」5



村山順吉

著者の廣瀬薫氏に初めてお目にかかったのは、自由学園のイスター礼拝に牧師としてお招きし、説教をしていただいた時のことであった。また、クリスマス礼拝にもお招きして、生徒、学生、教職員を含め聴かせていただいた者すべての心が豊かに養われる説教に、胸が熱くなったものである。廣瀬氏には礼拝の他にも、最高学部（大学部）では「自由学原論」の講義を担当していただいている。また、自由学園明日館公開講座や婦人之友誌の読者の会である『全国友の会』の、読書会の講師も務めておられる。

日本で最初の女性新聞記者であった羽仁もと子は、後に同じくジャーナリストであった夫、羽仁吉一とともに「婦人之友社」の創設、『自由学園』の創立、そして『全国友の会』の創立に力を注ぎ、その全てに生涯をかけて熱心に取り組んできた。さらに、キリスト教信仰を基として自身が広く社会に伝えようとしたことを、全二十一巻（婦人之友社新版）に及ぶ『羽仁もと子著作集』に著している。

廣瀬氏は今までに『羽仁もと子著作集』の中から数冊を取り

それ故に、テキストとして様々な工夫がなされている。

『信仰篇』の「神の家族」から「使命の道」までを、少しずつ読み続けられるように二十九日分に分け、各日は四ページで構成されている。そして読者が受身的な読み方や偏った読み方に陥らないように、質問の形で読者への問いかけがある。それを受けた読者自身が考えたことを、自分の言葉にして振り返りができるための欄も設けてある。

次に本文に引用されている、あるいは関連する聖書の箇所を示しながら解説を加え、その日ごとの、非常に励みとなるメッセージへと繋がっていく。メッセージは最後に祈りをもって語られるが、そこで終わらないのも本書の特徴のひとつであろう。読者がその日の「決心」を何かひとつ、自分で定められるように導いている。つまり本書は各日のテキスト全てが、イエス・キリストに救われる実感を与えられた後、それを実感だけに留めるのではなく、どのように生きるかという実践、言い換える

上げて、公開講座や読書会で扱ってきた。それが『良く生きる手がかり』としてシリーズ化され、本書はその第十二巻である。本書は『羽仁もと子著作集第十五巻 信仰篇』を扱った五分冊の五番目にあたり、これをもって『信仰篇』は完結である。『信仰篇』は全体が一つの流れになっているので、廣瀬氏はそれを次のように大きく三つに分け、本書の内容は③の部分である。

- ① 信仰論…何を信じるか、どのように信じるか、創造主を信じる立場に立つ世界観の全体像について。
- ② イエス・キリスト…人類に「新紀元」をもたらした誕生、生涯の本質、十字架と復活について。
- ③ 私たちの生き方…キリストを知った私たちは如何に生きるべきか。人生の目的、力の源、実践について。

本書は、イエス・キリストの十字架に支えられていることに気付かされた私たちが、次にどのようにしたら本当の意味での「良く生きる」ことができるのか、「良く生きる」とは何なのか、それを羽仁もと子の信仰理解をより深く味わい、その真意を正當に理解することを通して求めていくための手がかりである。

なら、キリスト教信仰を土台に生活する喜びにまで、しっかりと結びつけられるようになっていく。

羽仁もと子はキリスト教信仰を基とした、非常に熱のある生き方をもって、各方面に働きかけてきた。そして、聖書のみ言葉に支えられる者の、生き方の実践としての「生活」を大切にしてきた。このことは、現在の自由学園にもしっかりと受け継がれている。

廣瀬氏が羽仁もと子の生き方に共感を持って『羽仁もと子著作集』を深く読み解き、本書のような良書が刊行されたことは、誠に大きな喜びである。本書は単独でも十分な内容であるが、願わくは『信仰篇』とともにお読みいただくことをお勧めする。また、既に「信仰篇」だけでなく著作集全巻を読破された方々にも、是非お勧めしたい良書である。

（むらやま・じゅんきち 自由学園理事長）
（A5判・二二八頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）



教文館の本

http://shop-kyokwan.com/

好評発売中



世界が絶賛！ 巨匠手塚の遺作アニメ ● 本体28,500円

手塚治虫の旧約聖書物語

豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック

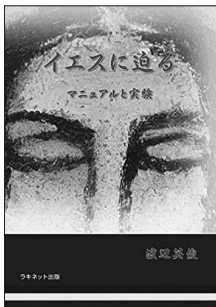
天地創造からイエスの誕生まで、壮大な聖書の世界を描いた全26話。世界が絶賛した聖書アニメの最高峰が、手塚治虫生誕90周年を記念して待望の復活！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 / 内容見本、図書目録 ● 価格は税別

信徒と一緒に「イエスに迫る」画期的な聖書研究！

渡辺英俊著

イエスに迫る マニュアルと実験



小海 基

牧会現場で生み出されたわくわくするような力作である。日雇い労働者の「寄せ場」として知られる「寿地区」の真っ只中にある日本基督教団なか伝道所の、「炊き出し」の現実に裏打ちされたからこそ深い聖書研究である。途中、お連れ合いを不慮の事故で亡くされながらも途切れることなく五回続けられた講座には、毎回三〇〜四〇名もの人が押しかけ、討論に加わったという。そのすごい熱気も記録されている。結論ありきの押しつけがましい展開ではないので、「私にとって聖書に対する絶対性が崩れた。大変迷惑だ。」(一〇七頁)という否定的感想も含めてかなり自由な反応が飛び交ったことが、ところどころに挟まれた「グループでの話し合い」という項に記録されている。そこから先の紹介は本書を実際に手に取って読んでのお楽しみということで、ここでは控えよう。

書名の「イエスに迫る」とは、教会やアカデミズムで従来なされていた聖書研究では忘れられてしまっている「イエス運動のインパクト」に「迫る」ということであり、神学校でいわゆる「様式史」的手法として教えられている「イエス伝承」を特

定し、その部分に集中していく聖書研究である。神学校の授業で習った時より数段も解りやすく説得力がある。私自身は、全聖書くまなく対象とする研究もあって良いと思うし、第二次大戦下強制収容所で処刑されたD・ボンヘッファーが「獄中書簡」の中で呼びかけたように新約をもっと旧約的に読んでいく必要も感じている。本書のように「イエス」という中心点と後世のゆがめ方の把握をまずすることは、そうした他のアプローチにも益することだと思っている。

著者は「伝承者の社会的立ち位置の見分けは、学術的な研究よりも現場に身をさらす体験で研かれた感性がものを言う領域」(五頁)なのだ、むしろ学術的には素人である講座参加者を励ます。「荒野の石に座って空き腹を抱えた民衆に語られたイエスの言葉」をそのままでもなく、「大理石の客間でご馳走に寝そべりながら語り伝え」たり、「先進国の国家予算で支えられる大学の研究室で研究の材料に」してきたり、この二千年間に付けられてしまった、「復活後の教会で成長した『キリスト』信仰」で枠付けしようとしてきた結果の「言い換え」や「誤読」、

「色」、「目線の高さ」、「上流志向」、「正統教理の草刈り場」的解釈：等のヴェールを一つ一つ取り払って迫っていくのだと作業させる(「はじめに」他)。それは第二世界の「解放の神学」の「草の根に広がっている」読み方でもあるのだという。逆にだからこそ、「今の日本」という「私たちの視座」そのものさえも、既に「先進」世界の中産階級の視座に固定されてしまっている「ことを自覚しなければならぬ」と、著者は参加者を戒める。

聖書学の歴史のいわゆる本家本元の「様式史」研究の方は、「イエスに遡りうる伝承」に限界を見て匙を投げてしまい、「教会の信仰伝承」をあぶり出す「編集史」研究へと移ってしまったているのだが、それはあくまでアカデミズムの「研究室」での話に過ぎないのであって、なるほど「イエス運動のインパクト」に「迫る」方法論として本書の聖書研究法は充分に成立しており、説得力がある。

著者は「なか伝道所創立25周年記念」として『私の信仰Q&

定し、その部分に集中していく聖書研究である。神学校の授業で習った時より数段も解りやすく説得力がある。

私自身は、全聖書くまなく対象とする研究もあって良いと思うし、第二次大戦下強制収容所で処刑されたD・ボンヘッファーが「獄中書簡」の中で呼びかけたように新約をもっと旧約的に読んでいく必要も感じている。本書のように「イエス」という中心点と後世のゆがめ方の把握をまずすることは、そうした他のアプローチにも益することだと思っている。

A キリスト教って何だ」という同じ姿勢に立つ信仰問答書を、五年前にも同じ出版社から出している。「これが正しい信仰だよ」という押し付けはしません」とあって「私の」という書名にしたのだという同書もまた快著である。この本をテキストにして私の教会の「成人科」で読書会をしたら、議論が大いに飛び交い盛り上がった。少子高齢化で総人口も減少し思うように教勢も伸びず、無牧の教会も増えるであろうことが予想されるこれらの日本の教会は、教職の解釈をありがたく拝聴するだけの受け身の信徒だけではないかと思う。信徒が自立して主体的に聖書研究し、自分も活かされ動かされていった「イエス運動のインパクト」をちゃんと聖書で確認し、伝えていく群れに成長していかなければならないはずだ。

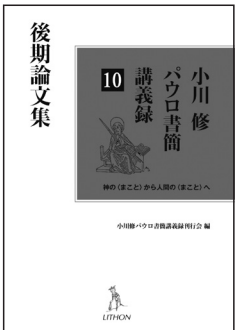
さっそく私は本書を次の成人科のテキストに指定した。

(こかい・もとい日本基督教団荻窪教会牧師)

(A5判・二二〇頁・本体一〇〇〇円+税・ラキネット出版)



新刊



小川修パウロ 書簡講義録10 後期論文集

小川修パウロ書簡講義録刊行会編
●A5判上製 四四六頁 ●定価三二四〇円

本シリーズは、小川修先生が二〇〇七年四月から二〇一〇年一月に亘り、同志社大学神学部大学院で行った「パウロ書簡」の講義録である。本巻はその基となる著者の論放(一九九〇年以降)の一六編を「後期論文集」として収録した。

LITHON [リトソ]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
TEL 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

ここにち、再形成に向かう一つのからだ
ルター研究所編

宗教改革500周年とわたしたち 5

ルター研究 別冊5号



白川道生

本書は、二〇一三年から、ルター研究所より毎年一冊ずつ刊行された『ルター研究別冊』最終号（全五巻）です。タイトルにあるとおり、「宗教改革500周年」を迎えての、いずれも探求心に満ちた研究と感じられました。とりわけ題にある「わたしたち」は、「現代社会に生きるわたしたち」であるがゆえに、それぞれの論文に通底する「臨場感」が本書の特徴となっています。

二〇一七年、日本福音ルーテル教会宣教室が、宗教改革五〇〇年を迎えて企画した記念行事のひとつは「活字」運動の展開でした。ルターが再発見した「福音」に依拠して改革を推し進めたように、宗教改革の振り返り・学習を過去の出来事の知識習得に留めず、今日的課題へと関心を向け、求められる役目を担おうとする教会の在り方を模索したい、という意図が込められていました。それに呼応した論文の数々と思えます。

冒頭の江口再起「ルターの脱構築——ルターと共に、ルターを越えて」論文は、中世キリスト教を脱構築したルター、ポスト近代に求められる改革、つまり脱構築と再形成される世界の

在り方を探求してゆきます。未来を「エキュメニズム」（換言すれば「共生社会」と定めて、視座を過去から未来へ前方転回させ、更には、地平をキリスト教会、教派の枠を超えて再形成される世界、つまり「人類的共生」へと向かう道筋でまとめられています。エキュメニズムの語源オイケオーから、共に住まう家＝地球環境といった概念定義が取り上げられています。

立山忠浩「今日的課題としての『ルターと聖書』」論文では、まず「聖書を根拠とする」ルターの足跡を確認します。カトリック教会との論争において、教皇や公会議で決議した教理を絶対的な根拠とする主張に抗い、聖書の言葉に徹して主張するルターに洞察の眼目が向けられています。次に、カトリックからの第一の教会分裂がもたらされたのち、形成されたプロテスタント内に起こったさらなる第二の分裂が考察されています。聖餐理解を巡る論争において、互いに聖書の言葉を根拠としても、「聖書解釈の正しさの論争」に傾斜し、判断も結論も出ずに、分裂によって論争が終結する。これは宗教改革時代の論争に見出される共通側面であり、つまり、分裂の要因は聖書解釈

を巡る問題に見いだされる。そして「聖書は誰が解釈するのか」という問題が、聖書中心主義を礎としつつも、カトリック的なヒエラルキーの制度を持たない、プロテスタント教会の避けられない課題であると指摘されています。さらに「今日的課題」の脈絡で、「洗礼とは」、「信仰とは」と、主要なキリスト教の教説について単刀直入に論じられています。滲む大胆さは、筆者が日本の教会に求められる役割を担おうとする真剣さと感じました。

二〇一七年一月、カトリック教会とルーテル教会の「対話」の積み重ねにより、両教会が宗教改革を共同で記念する「宗教改革五〇〇年共同記念礼拝」が長崎・カトリック浦上教会で結実しました。かつて激しく争った両教会が共同で主催した礼拝成立の背景には、両教会が共有する使命感に裏打ちされた対話がありました。「争いから交わりへ」と姿勢を転じて、平和を希求する祈りを合わせようと一つのからだとなる歩みに向かっていく事実を証言しようと、公共世界における責務の合意へと導かれたのです。実は、江口論文と立山論文は、共同記念企画

の実現に至る準備対話における骨格となった内容でもあります。

また、石居基夫「ルターにおける『律法と福音』、その重層的構造——法廷論的な救いの理解を超えて」、宮本新「ルターと十字架の神学——ここにちの視座から」、高井保雄「ルターを囲む人々とその時代風景」、真下弥生「宗教改革と美術——版画が伝える時代の息吹と現代への問いかけ」、加藤拓未「メデルズゾーン交響曲第五番『宗教改革』」の論考を収録しています。

本書の最後に、二〇一六年のルーテル世界連盟ルター派聖書解釈学プロジェクトの最終報告「はじめに言葉があった（ヨハネー）——ルター派共同体における『聖書』」（翻訳・安田真由子、解題・李明生）が掲載されているのは、時の導きが生み出した編集の妙でしょうか。今日の世界を生きるキリスト者が直面することになる課題へ取り組むための提言となっています。

（しらかわ・みちお）日本福音ルーテル教会前事務局長、佐賀・小城・唐津教会牧師

（A5判・三四頁・本体二〇〇円＋税・リットン）



カタリナ・シュツツェル

16世紀の改革者の生涯と思想

エルシー・アン・マッキー
南純監訳 小林宏和・石引正志*訳



プロテスタント宗教改革の発展と宗教生活に関する豊かな情景

女性信徒改革者の視点と言葉から、宗教改革が進みつつあったストラズブルの街と人々の緊迫した様子を描く。この「平凡」な女性が、宗教改革を広い視野で見渡すことのできる「のぞき窓」なのである。

菊判・函入・上製
定価【本体 8,000 + 税】円
ISBN978-4-86325-108-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延館222 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.cococan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区調子嶽777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2018年10月～11月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
鈴木佳秀	VTJ旧約聖書注解 出エジプト記19-40章	A 5	334	4,400 <small>(特価3,800円、2019年3月31日まで)</small>	日本キリスト教団出版局	10/5
金斗鉦／具本 曙／金徳造	マンガ絵本 聖書ものがたり ノアの箱舟	A 4	26	1,200	〃	10/5
カール・バルト著 佐藤司郎編・解説	カール・バルト説教選 しかし勇気を出さない ―待降・降誕・受難・復活	四六	248	2,400	〃	10/25
手塚治虫	手塚治虫の旧約聖書物語	9枚組DVD +ガイドブック		28,500	教文館	10/25
A.E.マクグラス著 佐柳文男訳	C.S.ルイスの読み方 ―物語で真実を伝える	四六	228	2,300	〃	10/30
加藤常昭編	いつも喜びをもって ―エフェソの信徒への 手紙・フィリピの信 徒への手紙講解説教	四六	416	2,200	〃	10/30
ルター研究所編	宗教改革500周年と私たち5	A 5	224	2,000	リトン	10/31
上智大学キリスト 教文化研究所編	宗教改革期の芸術世界	四六	148	1,500	〃	10/31
赤江弘之	聖書信仰に基づく教会形成	新書判	208	1,000	ヨベル	10/1
O.P.ロバートソン著 高尾直知訳	契約があらわすキリスト ―聖書契約論入門	四六	456	2,700	〃	10/20
桃井和馬写真・文	和解への祈り	A 5	96	2,000	日本キリスト教団出版局	11/1
小嶋リベカ	子どもとつむぐものがたり ―プレイセラピーの現場から	四六	152	1,500	〃	11/20
平野克己編	日本の説教者たちの言葉 輝く明けの明星 ―待降と降誕の説教	四六	260	2,500	〃	11/25
東馬場郁生	クリシタン研究第50輯 きりしたん受容史 ―教えと信仰と実践の諸相	A 5	320	5,900	教文館	11/25
片柳弘史	始まりのことは ―聖書と共に歩む日々366	文庫判	390	900	〃	11/30
久松英二	古代ギリシア教父の霊性 ―東方キリスト教修道 制と神秘思想の成立	A 5	320	3,800	〃	11/30
アンゲラ・メルケル著 松永美穂訳	わたしの信仰 ―キリスト者として行動する	四六	240	2,300	新教出版社	11/1
栗林輝夫	アメリカ現代神学の航海図 ―栗林輝夫セレクション2	A 5	472	4,900	〃	11/30
江口再起	ルターの脱構築 ―宗教改革500年とポスト近代	四六	223	1,500	リトン	11/26
山本文夫・淳子文・写真	伊豆・川奈に導かれて	四六	152	1,000	ヨベル	11/1
山口勝政	福音主義聖霊論 ―あなたのみことは真理です	四六	208	1,300	〃	11/1

お詫びと訂正 本誌二〇一九年一月号二六頁記載の「近刊情報」上段五行目「京ディズニーランド」は「東京ディズニーランド」の誤りでした。お詫びして訂正します。

福音と世界

2019年2月号

特集 生権力とキリスト教

寄稿者＝箱田徹、清水知子、美馬達哉

大橋由香子、後藤吉彦

書評・栗原康×白石嘉治「文明の恐怖に直面したら読む本」(大川大地)、台北アンプリファイ
報告(藤原佐和子)、時間をクイアするというこ
と(安田真由子)／好評連載 福音書記者たち
の饗宴(松本あずさ) 遺跡が語る聖書の世界(長
谷川修二)、聖書とわたし(立石真也) ほか

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

昨秋公開の映画「教誨師」は大杉連の遺作であり、季刊『Ministry』(二〇一八年一月号、キリスト新聞社刊)に佐向大監督と川上直哉牧師の対談が掲載されていたほか、多くのメディアで取り上げられていました。教誨師として活動する牧師を描く作品ということもあり劇場に足を運びました。

舞台は刑務所の一室で、大杉連演じる牧師・佐伯と死刑囚との対話のみが映し出されます。映画では事件背景や動機は触れられないまま、対話だけで進行してゆきます。死刑囚を演じる六人の俳優たちの鬼気迫る演技やまなざし。生きること、死ぬこととは何か、罪、救いとは、人間に人間が裁けるのかという問いを、観客に繰り返し投げかけているように感じました。それら全てが、鑑賞後にもずしり

と重く、心に爪痕を残されたような感覚が抜けませんでした。

映画の終盤である死刑囚が大切に握りしめた紙に、「あなたがたのうち、いったいだれが、わたしに罪があると責めることができるだろうか」(ヨハネ八・四六)という聖句がありました。映画自体はフィクションでも、極刑として人の命を奪うことが行われている。その矛盾と現実の重さを考えずにはられません。

劇中で「空いた穴を一緒に見つめる」という言葉が出てきます。佐伯が緊張感の中で言葉を選び、苦闘しながらも寄り添おうとする姿が印象的でした。現場で人と対峙したときにどういう言葉を語れるのかという投げかけのようにも思えます。

人が人を支える時にキリスト教の人間観や宗教として語れることの可能性と限界、そして人間が決めた枠組みを超えていく言葉の力をも感じる作品でした。(福永)

本のひろば 2019年3月号 予告

本・批評と紹介…W・ブルッゲマン著「平和とは何か」、鈴木佳秀著「VTJ旧約聖書注解 出エジプト記19―40章」、山口勝政著「福音主義聖書論」、永田圭介著「あまつましみつ」、カール・バルト説教選「しかし勇気を出しなさい」、山口勝政著「福音主義聖書論」他

お詫びと訂正 本誌二〇一九年一月号三頁下段五行目に記載の「斎藤佳代子」は「斎藤佳典子」の誤りでした。お詫びして訂正します。

デイズニーランド研究

宮平望 (西南学院大学文学部教授)

世俗化された天国への巡礼

膨大なデイズニー関連文献を徹底的に踏破し、ウォルト・デイズニーその人の生い立ち、キャリア、信仰・思想から、そのテーマパークの構造と機能、宗教性に到るまでを明らかにする。「影の宗教」としてのデイズニーランドに迫る。

◆四六判・本体2000円

1月25日

旧約聖書入門 3

大野恵正

現代に語りかける出エジプトと契約

聖書を分かりやすく、かつ格調高く語ることに定評ある著者が、旧約聖書から受け取った豊かなメッセージを現代人に取り次ぐ。この巻では特に難解な律法をどう読むかを解き明かす。

◆小B6判・本体1900円

1月25日



詩篇の思想と信仰 VI

月本昭男 (古代オリエント博物館館長・上智大学教授)

第126篇から第150篇まで

厳密な私訳、詳細な語釈、透徹した分析。古代オリエント学に通暁した著者による詩篇の全注解、完結間近。Vは2019年刊行予定。

◆四六判・本体3400円

12月20日

アメリカ現代神学の航海図

栗林輝夫 / 大宮有博・西原廉太編

栗林輝夫セレクション2

ダイナミックな活力に溢れるアメリカ現代神学を、ウーマニスト神学からポストモダン神学まで広く鋭利な視点から分析する。著者の遺稿から17編を精選した2巻本セレクション完結。

◆A5判・本体4900円

カール・バルトの愛と神学

没後50年記念 DVD 作品

ペーター・ライヘンバッハ制作 (スイス/ドイツ 2017年)
バルトの生涯を自身の証言や、孫たちをはじめ関係者のインタビューで辿り、神学の同時代史的関連を鮮明にする。助手キルシュバウムとの恋愛も正面から取り上げ、神学と実人生との関係に光を当てる。福嶋揚氏のエッセイ等を収録した小冊子付き。◆DVD 1枚+ブックレット 本体3700円



本
の
ひ
ろ
ば
一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一九年二月一日発行(毎月一回一日発行)
第七四号 二〇一九年二月号

初期キリスト教の 宗教的背景 (下巻)

古代ギリシア・ローマの宗教世界

H. J. クラウク 小河 陽 監訳

河野克也/前川 裕 訳



◆A5判 上製・360頁・5,400円

2019年1月25日刊行予定

▼上巻好評発売中 5400円

キリスト教誕生当時における、周
辺世界の宗教・哲学・習俗を詳説。
ドイツ語圏、英語圏で高い評価を得
ている世界的名著、下巻刊行。

視点を変えて 見てみれば

19歳からのキリスト教

塩谷直也



◆四六判 並製・120頁・1,296円

2019年1月24日刊行予定

大学生たちに福音の真髄を伝えてき
た著者ならではの入門書。自由、祈り、
贖罪、復活などの基本をイラストと
ともに楽しく学べる全15章。

むねあかどり

絵本

ラーゲルレーヴ 作
中村妙子 文/高瀬ユリ 絵

神さまに「むねあかどり」と名づけられた灰色の小鳥が、イ
エスの十字架刑の事件を通して赤い胸になった理由を描く。
待望の復刊！

2019年1月15日復刊予定

◆B5判変型 上製・24頁・1,080円



イベントのご案内

VTJ講演会@横浜

VTJ 旧約聖書注解 出エジプト記 完結記念

講演会・シンポジウム

日時 2019年2月9日(土)
14時~16時30分(開場13時30分)

会場 日本基督教団 横浜指路教会
横浜市中区尾上町6-85

参加費 入場無料(申込不要)

●プログラム

第1部 鈴木佳秀氏 講演
「われわれ」と共に歩まれる神
—出エジプトの神



第2部 シンポジウム
パネリスト:鈴木佳秀氏、小友 聡氏、藤掛順一氏

主催/日本キリスト教団出版局、横浜キリスト教書店 協力/横浜指路教会

定価七八円(税抜七四円) (¥62円)
一年分二三〇〇円(送料共)